

松本家武家屋敷: 県指定有形文化財

松本家は、佐竹氏の重臣であった今宮家の家臣でした。秋田藩の城下町・角館は 1603 年から 1653 年まで佐竹氏の一門であった蘆名氏が治めていました。この期間、松本家は今宮家の他の家臣が住んでいた内町（inner city）とは離れた場所にある、角館の南側の田町という地域で暮らしていました。

1653 年に蘆名氏の家系が断絶し、角館地域が佐竹氏一門の佐竹北家の統治下に置かれた際、松本家は内町にある下級武士と足軽の居住区であった小人町に移り住みました。

最下級の武士という地位を反映して、松本家の屋敷は小さくこじんまりとしており、茅葺き屋根と柴垣がついています。この屋敷は江戸時代後期に建てられたと考えられており、母屋に加えて、離れの寝室も残っています。この武家屋敷は保存状態が良好なため、時代劇のセットとして使われたこともあります。

下級の家柄ながら、松本家は世に求められる才覚を持った人物を輩出しています。例えば、須藤半五郎（1775–1851）は、秋田藩の学校である郷校弘道書院で教師として勤めただけでなく、武士の正しい振る舞いの教科書「烏帽子於也」の著者でもありました。

松本家の武家屋敷は一般公開されており、春から秋にかけてイタヤ細工（itaya wickerwork）の実演が行われます。イタヤ細工は、イタヤカエデの細い帯でさまざまな品を編み上げる 200 年の歴史を持つ工芸です。